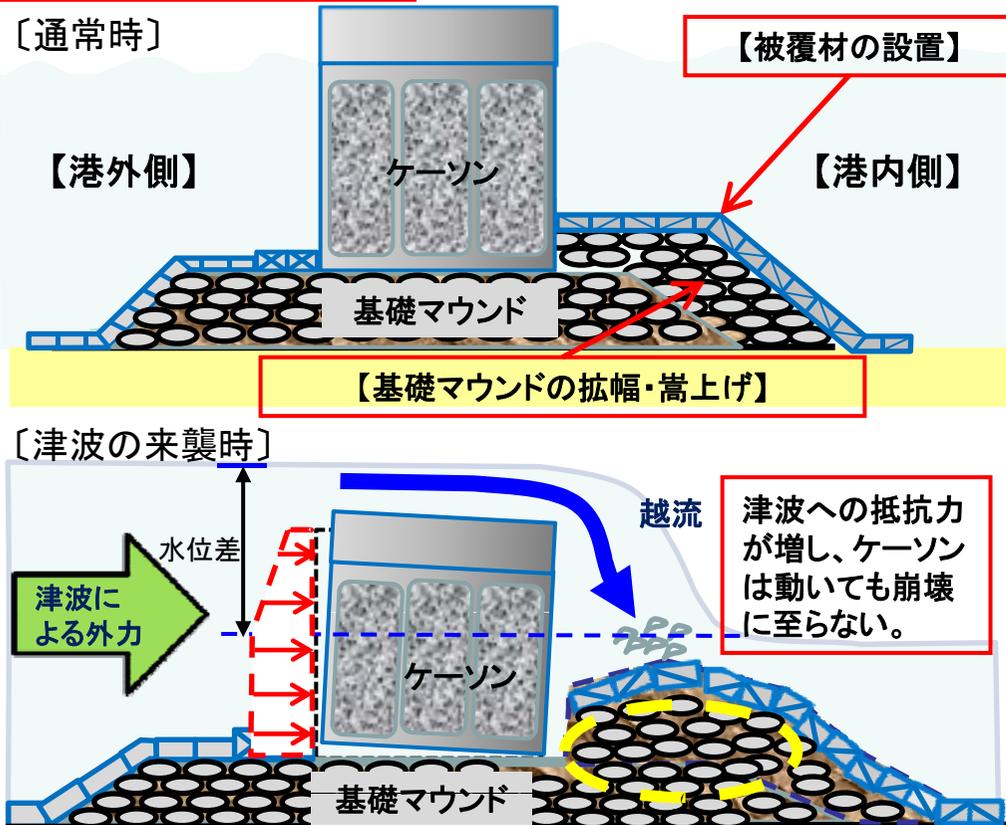


資料3-2 港湾の施設の技術基準の見直しについて

- 東日本大震災では、港湾の施設も大きな地震・津波被害を受けたことから、地震・津波に強い港湾を目指し、**港湾の施設の技術基準の見直しを予定。**
- 具体的には、**防波堤等の粘り強い構造**や**液状化の判定方法の見直し**等の基準の見直しを予定。
- 今後、技術的な検討を進め、**防災部会の答申等を踏まえ、早期に技術基準の見直しを進める。**
(可能な見直し措置は平成23年度内に実施)

粘り強い構造



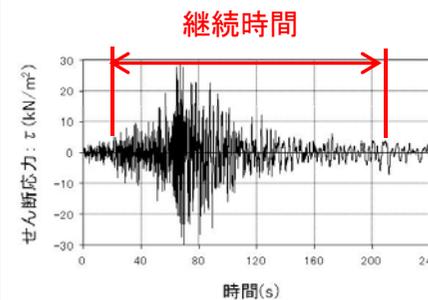
防波堤を越えるような高さの津波の被害を受けても崩壊せず、減災効果を発揮する「粘り強い構造」とする設計を目指す

液状化の判定方法の見直し

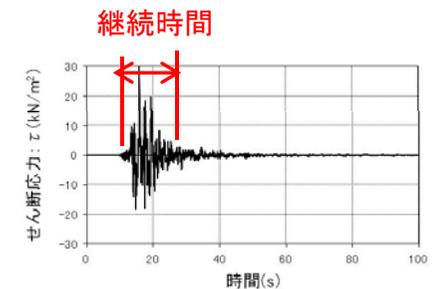
今回の震災では、地震動の継続時間が長かったため、液状化被害が拡大。しかし、これまでの液状化判定方法は、継続時間が考慮されていなかった。



継続時間を考慮した液状化判定方法に見直し、港湾における液状化の予測精度の向上を図る。



地震動の継続時間が長い波形
(東日本大震災)



地震動の継続時間が短い波形
(阪神大震災)